ドン・アルバロの列 福式が行われようと していた頃、プール に落ちた子供の話

アメリア・モリリョ・ベラルデとロクサナ・サラザル(チャナ)は、それぞれ、夫の仕事の都合で、偶然にもメキシコで知り合いました。小さい子供たちを連れて、公園で何度も出会ううちに、二人は友情で結ばれました。2人の家族は、その後、それぞれの出身地、マドリードとリマに帰っていきました。

2014年、ドン・アルバロの列福式が 9月27日に挙行されることが公表されました。チャナの家族は、大西洋 を渡りマドリードの列福式とローマ への巡礼をすることに決めました。 8人の子供連れとなるため、大変な 旅になることが予想されましたが、 新福者への愛着が勝ったのでした。 チャナは早速、自分達の計画を友達 のアメリアに知らせました。アメリ アが述懐しています。「私には子供 が3人いますので、チャナの知らせ を受けた時、8人の子供を連れてマ ドリードに来るのは大変なことだっ 思いました。夫と相談し、私たちの 家に招待することにしました。寝る 場所をどうするか、分かりませんで したが、私たちはとても嬉しかった のです」。

飛行機の長い旅の後、9月25日、朝6時にマドリードに到着した。ナリードに到着した後、チャンの家族に挨拶した後、チャンの家族に依明福がいるので、のをいるのので、のを祭ってもたって、のを祭って、のをいるのの年後は、チャンのもたが、アンシスコの姿が見えない。

を心配し、夫エドゥアルドと一緒に 子供を探しまわりました。

他方、アメリアは、まさか庭のプー ルに落ちたのではと心配になり、そ の場へ近づくと、大きな黒い浮き輪 の下に何かが見えました。「そん な、お願い、そんなこと…」と自分 に言いながらアメリアは駆け出しま した。杉の木がそびえるプールの片 隅に、フランシスコはうつぶせの状 態で浮いていたのです。フランシス コの右足をつかみ、必死で引き上げ ました。びしょ濡れになった子供 は、息をしていません。真っ青で意 識がなく、何をしても反応がありま せんでした。

「エドゥアルドは、叫びながら子供を私から抱き取り、激しく揺さぶりました。フランシスコは人形のようにただ揺れているだけでした。すぐにチャナとフランシスコの兄弟たちも駆けつけ、皆、泣いていました。

エドゥアルドも私も、もう亡くなっ たと感じていましたが、チャナは希 望を持ち続けていました。フランシ スコのそばにひざまずき、子供を逆 さまにして水を吐き出させました。 また、他の子供たちに、ドン・アル バロに祈るようにと言い続けまし た。7歳のマリ・パズは泣きながら 母のチャナに言いました。『私、見 たの。フランシスコはおもちゃが欲 しかったのよ。私見たの…』。プー ルに浮いていたゴム製のアヒルを見 たフランシスコは、それが欲しくて プールに落ちてしまったのですし。

ラファエルが現れる

皆が、声をあげて「主の祈り」を唱えていた時、見知らぬ男性が現れ、フランシスコに応急処置を施します。この男性は近くの家で作業をしていたのですが、叫び声を聞きつけるや、すぐに駆け付けてくれたのです。アメリアの家のベルを鳴らし、

アメリアの娘が彼を家に通しました。

アメリアは語ります。「とても驚き ました。玄関のベルも何も耳に入り ませんでした。私には彼が突然に現 れたようでした。まるで神様が送っ てくださった天使のように思いまし た。ラファエルという名の方で、バ ラハス市に住んでいると後で知りま した。彼はペルー人で、市の消防士 として働いていました。また、『奇 跡の主イエス信心会』に参加してお られることも後で知りました。ラ ファエルはフランシスコに人工呼吸 を施しましたが、胸を押さえる心臓 マッサージは行いませんでした。幼 い子供にはとても危険なことだそう です。彼が迅速に指示を出し、私た ちは毛布を持ってきました。そのう ちに、フランシスコの顔色がちょっ と良くなりました。私たちがパニッ クに陥っていた時、ラファエルは安 心させてくれたのです」。

15分後、警察官が到着した時には、 子供の容態は非常に悪かったので す。心肺停止状態でした。警察官は 警察署に、子供の回復の見込みはな さそうだと報告してたようです。そ れは、数日後に、彼自身がアメリア に語ったことです。さらに、5分後 に救急車が到着し、子供の心肺蘇生 を試みました。そして、なんと15分 後、ついにフランシスコが泣き声を あげたのです。1時間ほど落ち着か せて様子を見、人口呼吸器を当てら れたフランシスコはマドリードの ラ・パズ病院へ搬送され、集中治療 室に入りました。

アメリアが語っています。「チャナは、ずっとひざまずいたままドン・アルバロの祈りを唱え続けていました。私もようやく落ち着きを取した、彼女のそばにひざまずきまして、彼女は私にロザリオを渡してくれました。搬送されるフランシスに同伴する両親について、私も病院

へ行きました。家には子供たちだけが残ることになったので、夫に連絡すると、彼はすぐに仕事から戻ってくれました」。

集中治療室で

チャナは集中治療室の前で祈り続けました。そこで数時間とどまって数時間とどれました。その間、フランシス看護して、ました。ですれてきた人を室が治療室の様子として、ました。両親の説明を聞くとしました。両親の記明を聞きました。両親の記明を聞きとしました。 としました。両親の記明を聞きました。 としました。 としました。

「フランシスコが担架に移されるのが見えました。トモグラフィー検査をするために運ばれていくのです。 顔色は熱のため赤くなっていました。その後、真夜中になって、チャナのいとこと一緒に、私は家に帰りました。チャナとエドゥアルドは、 ずっと集中治療室の前で、夜通し祈り続けました。私は、フランシスコが回復したなら、『サンティアゴの道』を巡礼すると神様に誓いました」。

翌日の朝、チャナとエドゥアルドは、他の子供たちに会うため「チャカンシスコが『ママ』と話して、「シースコが『ママ』と話していたのです。回復にかっていたのです。また、加えはかった。「祈りのカよ』と付けが心配では、フランシスコの命に別状は配でしたが、後遺症が心配でしたが、後遺症が心配でしたが、

アルバロ・デル・ポルティーリョの 列福式

アメリアはチャナに、ドン・アルバロへの感謝として、列福式に参列することを勧めました。「私たちは、大きな期待のうちにも、とても落ちついていました。聖体拝領の時、奇

跡をなさった神様に心から感謝しました。多くの人がチャナに挨拶し、フランシスコのために祈っていると言ってくれました」。

27日、フランシスコは集中治療室を出られませんでしたが、確実に回復していきました。午後、アメリアの家にフランシスコを救ったラファエルが現れました。彼は、近くの家での仕事を終ったところでした。その時、彼は事故の日に起こった次第を説明してくれました。

同じ日の夕方、病院からの連絡がありました。もう子供に面会できるとのことでした。フランシスコはぐずついていました。体に挿入されていた管などを我慢できなかったようです。医師たちは、子供が生きていることを大変驚いていました。

フランシスコの退院

午後5時15分にフランシスコはアメリアの家に戻りました。皆で子供を出迎えました。そして、フランシスコを連れて、ラファエルに会いに行きました。そして、家族ともども、感動のひと時を分かち合いました。

ローマへ

ビリャ・コルタ家は予定通り、9月 29日にローマへ向けて出発しまし た。フランシスコは熱を出していた ので、検査のため病院に行きまし た。また、新福者に熱が下がるると、 新りました。すると、熱はすぐはない がり、ローマで過ごした日々はる日本のになりました。 も感動的なものになりました。 を動的で祈ることができるの でがることがである。 をも知り合うことができる はの子供とも知り合うことができまた。 また、 ました。 ました。

10月10日、一家はリマへ帰る前にマドリードに戻りました。ラファエルとアメリアの家族全員に会うこともできました。特別の出来事によって結ばれた彼らのきずなは、一生続くことでしょう。翌日、一家はリマへ向けて出発しました。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/don-alvaro-no-reppushikino-puruni-ochita/(2025/12/13)